

経営比較分析表

神奈川県 茅ヶ崎市

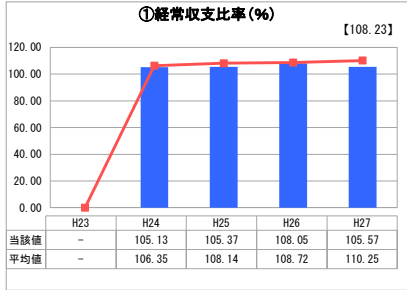
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	55.77	95.54	100.63	1,844

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
241,264	35.70	6,758.10
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
230,513	22.18	10,392.83

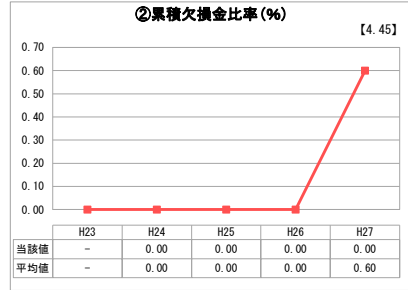
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

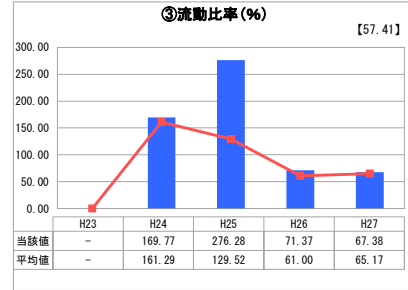
1. 経営の健全性・効率性



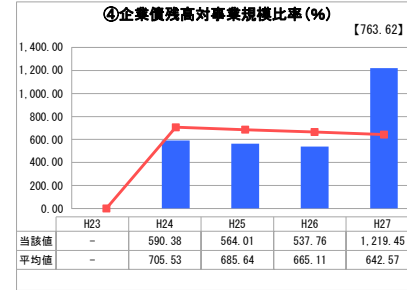
「経常損益」



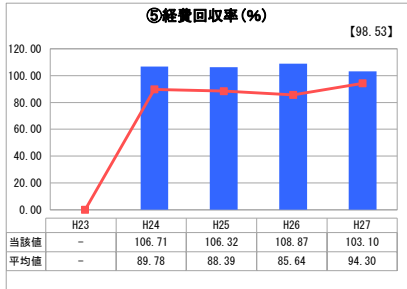
「累積欠損」



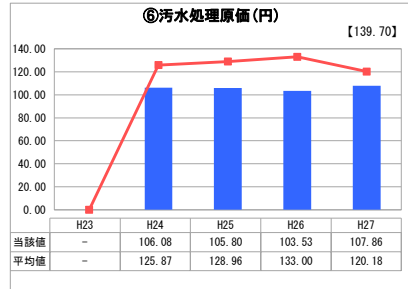
「支払能力」



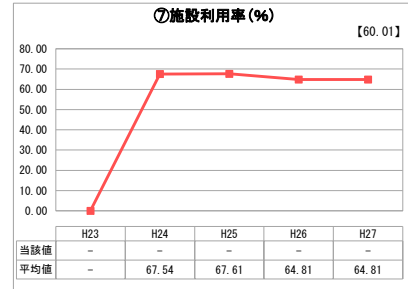
「債務残高」



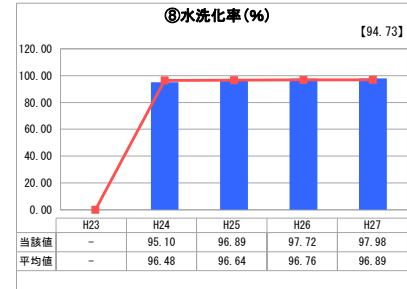
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

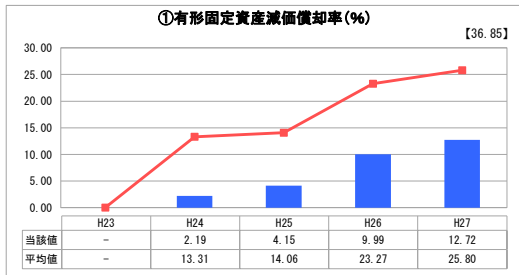


「施設の効率性」

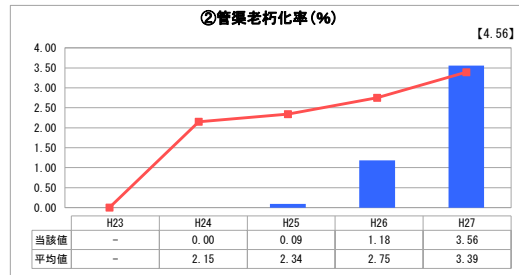


「使用料対象の捕捉」

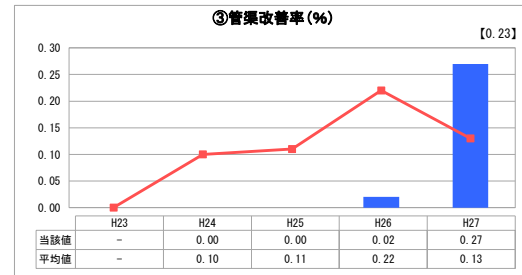
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%を上回っており、累積欠損比率が0%であることから、比較的健全な経営を行っていると言えます。

一方で、流動比率が100%を下回っており、近年の決算の状況から下水道使用料収益が徐々にではあるが減少していること、維持管理費が増加していること、現金が減少していること等から、短期的な現金が不足していると判断できるため、この状況が続けば、将来的に厳しい経営状況に推移する可能性があります。

2. 老朽化の状況について

昭和38年度に下水道整備を始め、当初に布設した管路は法定耐用年数である50年を越えています。管路老朽化率において、類似団体並みの数値ではありませんが、管渠改善率は類似団体を上回っている状況のため改築更新事業の進捗は良好であると分析されます。

平成28年度中に維持管理計画を策定し効率的な維持管理及び投資計画を進めていきます。

全体総括

経営の健全性や効率性は各指標からも比較的高い水準にあると考えられます。

一方で布設管渠の老朽化の進行、維持管理費の増加、下水道使用料収益の減少傾向、また現金が減少傾向にあります。

将来のリスク回避を考え、料金改定も視野に入れながら経営戦略の策定を行い、経営改善の手法を模索していきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。